

# 認知症をわかりたい<sup>(4)</sup>

## ある日の「講座」をのぞいてみた

協力：京都市左京南地域包括支援センター

■認知症は全国に169万人存在し、20年後には倍増するとみられる病気です。認知症の人を見守れる人を増やそうという講座も各地でおこなわれていますね。このページでは、みなさんと一っしょに、ある日ある場所でおこなわれた講座をのぞいていきます■

私たちは認知症とどうつきあえばいいのか。その気持ちに一步でも寄り添うには？ 実際に遭遇しそうな場面を、お芝居でご覧いただきましょう。

### 道に迷ったおばあちゃん の巻

〈場面〉道端にぼんやり立っている認知症のおばあちゃんがあります。外に出ていくうちに、帰り道がわからなくなりました。季節は初夏だというのに、ずいぶん厚着…。

そこへ、買い物途中の顔見知りの女性が偶然通りかかって声をかけました。

女性…あらまあ、おばあちゃん、こんなところで何をしていますのっ!?

「ひとりで外に出たらアカン」ていわれてますやろ？ この間も帰れなくなつて、お嫁さんがずいぶん捜したの、忘れましたか？ みんな忙しいんですよくええかげんにしてねえ。しょうがないから、私がお家まで連れ帰つてあげますワ。

それでまた、この暑いのに、こんな分厚い服を着て、何を考えてはるのやろナ。お嫁さんもたいへんやわあ、かわいそうやと思わはりませんか？

もう、おひとりでお出はだめですヨ。早く帰りましょ、さあさあ早く！

認知症のおばあちゃん…（女性から早口でまくしたてられ、手を引っ張られてオロオロする）

司会者…おばあちゃんがいま、どんなお気持ちなのか、さいてみましょう。

認知症のおばあちゃん…こんなに怒られて怖いし、悲しいし、自分が情けないです。何をいわれてるのか、わかりませんでした。どうしたらええのかしら？ 「忘れたらアカン」つていわれても、ムリなんですわ。

司会者…おばあちゃんは、なぜお外に行こうと思つたのですか？

認知症のおばあちゃん…家の中にいてもすることがないし、「ちよつとそこまで散歩して、お花でも見たら気持ち良さウつとするんちゃうか」と、思いましたん。



## ほつと介護

85

時間や季節感の感覚が薄れたり、方向感覚が薄らいで、迷子になったりするの、認知症の症状のひとつ「見当識障害」です。見当識とは、現在の年月や時刻、自分がどこにいるのか？などの基本的な状況把握の力です。あなた自身がこういう場面に遭遇したら？ 考えてみてください。

### 迷子のお年寄りを発見

#### 認知症サポーターはこうした

■あるスーパーで。売り場を何時間もウロウロする高齢の女性に気づいた店員Aさんは、「お疲れでしょう、私はこれから休憩なので、一緒にお茶でも」と話しかけた。女性が自分の話をしたので、身元がわかり、家族に連絡をとることができた。

■路線バスで。終点になっても降りない高齢の乗客がいた。運転手のBさんが「どこまで行かれますか」と、声をかけると、産線になった停留所名を答える。お客さんの顔色がよくないと気づいたBさんは「事務所でお茶を」と誘い、事務職員が対応して持ち物から連絡先が判明、大事に至らなかった。

（参考）認知症サポーター養成講座標準資料